

## Principal Correspondence

### やりぬく力こそ成功の秘訣

リリー学園の価値観のひとつに「才能より、得意な道で『やりぬく力 (GRIT)』を伸ばすことこそ、人生の成功の鍵である。」があります。よく子どもが「宇宙飛行士になりたい」とか「昆虫博士」になりたいと夢を語りますが、小学校のときは大いに夢を見て何でも体験する。中学から高校時代ぐらいまでには、はっきりと目標を定めその旅路をスタートしたいものです（それは変更することになっても良いのです。つらいからやめるのではなく、他に好きな道がこれだと確信できたなら・・・）。なんとなく学生時代をすごすのではなく、まずは自分の好きな道をしっかりと歩むこと（クラブ活動や、習い事、生徒会活動などは価値ある活動と最近見直されて来ています）。かっこ悪くても「こつこつ」やり抜くことが大切です。

その旅を始めれば、必ず思わぬ障害、失敗や、挫折は起こるものです。それをどう乗り越えるかによって成功の可否が決まります。「思うように成績が伸びない」「試合に負けた」「コーチに叱られた」・・・壁は様々ですが、親が手を回してその壁を取り除いてはなりません。また、そのぐらいの挫折でやめさせてはいけません。最近「レジリエンス（挫折回復力）」こそが学力であるという説もあります。目の前の課題や障害は、やり方を何度でも試し、効果があれば継続して行うように仕向けること。断固たる「信念、勇気、決意」のみが成功をもたらすのです。

「偉大な水泳選手になるなら、偉大なチームに入るしかない。」という言葉があります（GRID アンジェラ・ダックワース ダイアモンド社）。人は社会的動物なので、やはり周囲の文化に合わせるようにできている。「のびのび個性が大事」といって身の回りの管理もルーズな文化の中に入れば「自己チューで自分にいつも甘い子」になりますし、やりぬく力の強い人に囲まれると自分も自然とそうなる。超人的な練習も、当たり前になるという例えです。良い学校に進学するという意味は、こういうことかもしれません。

リリーでは、スポーツクラブや小学校でもそうした「助け合い、競い合い、教えあいながらもしっかりやりぬく文化」をもった集団を目指します。



## Principal Correspondence

### 自分探しは幸せの条件？

よく世界中をバックパッカーとして旅し、自分探しをしている人がいます。また、日本でもアルバイトを重ねて、自由な生き方？をしながら自分探しをする人がいます。若者ならわかるような気がします。今では40代までやっている人もいます。(最近では老後に自分探しを始める人もいますか?)

「自分探し」って何でしょう？(中には、現実逃避や、社会に対する甘えや恐れ、単に刺激を求め続ける人などがいるのでそれは別として)ある心理学者は「要するに自分の好きなことや得意なことを仕事に結び付けられるものを探すこと」と言います。私は好きなことは必ずしも得意なことではない(例えばギターが好きでもプロにはなれない)と思いますが、少なくとも得意なことは(他人より優れているので認められることが多く結果好きになる)優位なので仕事に結び付けられれば幸せに近づくと思います。

また、ヒトは普通社会と関わらずには生きて行けません。よくリタイアした人が古民家生活と農業にあこがれて田暮らしを始めたものの、人との関わりがなくてまた都会に戻るといふ話を聞きます。私の友人でも老後は一人旅とゴルフで暮らそうと思ったが結局3ヶ月で飽きて人とのかかわりを求めてアルバイトを始めたなどと聞くと人生は、人とのコミュニケーションがもてないと幸せになれないことがわかります。

さらに当たり前ですが人は仕事をしなければ食べて行けません。家族を持てばさらに重責がかかります。これからは女性も働くのは当たり前の社会ですから、男女を問わず仕事に就くようになります。しかし職業人生は40~50年続き人生の大部分の時間を過ごすことになるので、仕事が「単にお金を稼ぐだけ」ではなく「この仕事が好きだ」「大変だけどやりがいがある」とか「社会の役に立っているという充実感がある」といったことが幸せに近くなるのは確かです。

それを探すのが自分探しなのです。

幸せの条件はいろいろありますが少なくとも、人との「コミュニケーションが上手になること」「得意なことを見つけていくこと」が必要だと思います。それが20歳ぐらいまでの教育の目的です。小学生のうちにはふわふわと夢の中ですから、様々な経験体験をまんべんなく行いこの二つを模索し、中高生になったら少しずつ適正を職業と結び付けられるための準備をしていくべきでしょう。

